

みえんしす 48号



1P これまでの10年と次の10年に向けて



2P 開館以来ご支援いただいた
企業・団体のみなさまへ
「企業パートナーシップ感謝の集い」を開催しました。



3P みんなの博物館があなたの町へ



4P “博物館ウェディング”から、はや10年



5・6P 基本展示をつかって10年
伊勢参宮の東西文化の交流を読み解く



おかげさまで10周年

10th anniversary!
19 April, 2024

これまでの10年と次の10年にむけて



開館 10 周年記念行事（令和 6 年 4 月 21 日）

MieMu のこれまで

令和 6（2024）年度は、平成 26（2014）年 4 月 19 日に開館した MieMu の 10 周年の年でした。これまで、「三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承し、次代へ活かす」、「学びと交流を通じて人づくりに貢献する」、「地域への愛着と誇りを育み、地域づくりに貢献する」という 3 つのミッションを掲げ、三重の魅力を伝える場として、またみなさんの知的好奇心を支える場として活動してまいりました。これらの活動は、多くの関係機関のご協力、県民・利用者の皆様のご理解とご支援で成り立っております。おかげさまで、県民をはじめ多くの方々にご利用いただき、本年 2 月末時点で累積来館者数が 220 万人を越えております。MieMu は県民・利用者の皆さまとともに活動していくことで、ともに成長し、次の 10 年、さらに 50 年、100 年を歩んでまいりたいと思います。

MieMu のこれから

これからも、3 つのミッションを通じて、多様な企画展、子どもから大人まで参加できるフィールドワークやワークショップ、県内全域で実施するアウトリーチ活動、さまざまな企業、団体、機関との連携事業、ミュージアムパートナーやボランティアとの活動など、多種多様な活動を館内外で行っていきます。これからも引き続き MieMu の活動にご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

三重県総合博物館 館長 守屋和幸

これまでの歩み 企画展を中心に

平成 22 年 3 月 新県立博物館建設工事着工

平成 23 年 1 月 起工式



平成 25 年 6 月 三重県総合博物館条例公布（平成 26 年 4 月 19 日施行）

8 月 三重県立博物館からの移転着手（～平成 26 年 1 月）

平成 26 年 3 月 三重県総合博物館条例施行規則公布（平成 26 年 4 月 19 日施行）

4 月 開館（18 日：開館記念式典 19 日：グランドオープン）、企画展「MieMu 発進」（～5 月）



5 月 企画展「『日本の心』第六十二回神宮式年遷宮写真展」（～6 月）



6 月 入館者数 10 万人達成

7 月 企画展「でかいぞ ミエゾウ！～化石が語る巨大ゾウの世界～」（～9 月）

10 月 企画展「祈りと癒しの地 熊野」（～11 月）

平成 27 年 1 月 企画展「ふたりのウェディング事情」（～3 月）

3 月 企画展「親鸞～高田本山専修寺の至宝～」（～5 月）

7 月 企画展「あんな虫、こんな虫、そんな虫～身近な小さな生きものたち～」（～8 月）

9 月 入館者数 50 万人達成、企画展「SUZUKA 夢と挑戦のステージ～ホンダの F1 と鈴鹿サーキット～」（～11 月）



12 月 企画展「くらしの道具～いま・むかし～」（～平成 28 年 1 月）

平成 28 年 2 月 企画展「国立公文書館共催 明治の日本と三重～近代日本の幕開けと鹿鳴館時代～」（～3 月）

4 月 企画展「伊勢志摩～常世の浪の重浪よする国へ、いざ NOW！～」（～6 月）

7 月 企画展「大変動の地～三重の三億年・変動に生きた巨大生物たち～」（～9 月）

10 月 企画展「The NINJA～忍者ってナンジャ！？～」（～平成 29 年 1 月）



平成 29 年 1 月 企画展「植木等と昭和の時代」(～3 月)
4 月 企画展「きて・みて・さわって カモシカ☆パラダイス」(～6 月)
7 月 企画展「みんなののりもの大集合～この夏、三重をのりつくそう～」(～9 月)
9 月 入館者 100 万人達成、企画展「発掘された日本列島 2017」(～11 月)
11 月 企画展「オリンピック・パラリンピック 栄光の軌跡―秩父宮記念スポーツ博物館 三重巡回展―」(～平成 30 年 1 月)
平成 30 年 4 月 企画展「知ってる貝！見てみる貝！貝のヒミツ」(～6 月)
7 月 企画展「おもちゃ大好き！～郷土玩具とおもちゃの歴史～」(～9 月)
9 月 企画展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎」(～11 月)
12 月 企画展「くらしの道具～いま・むかし～ 特集 “三重の伝統産業。”」(～平成 31 年 2 月)
平成 31 年 4 月 企画展「ボタニカル・デザイナー植物のかたち、その観察―」(～6 月)
令和元年 7 月 企画展・特別展「この男がジブリを支えた。近藤喜文展」(～9 月)
10 月 企画展・特別展「三重の仏像～白鳳仏から円空まで～」(～12 月)
11 月 入館者数 150 万人達成
12 月 企画展「1960 年代の熱気を未来につなぐ～出来事でふりかえる 60 年の歩み～」(～令和 2 年 2 月)
令和 2 年度 新型コロナウイルス感染症拡大防止にかかる企画展中止
令和 3 年 4 月 企画展「やっぱり石が好き！ 三重の岩石鉱物」(～8 月)
10 月 企画展「寺院に伝わる戦国の残像～北畠氏のいた時代～」(～11 月)
令和 4 年 4 月 企画展「名所発見、再発見！～浮世絵でめぐる三重の魅力～」(～6 月)
7 月 企画展「集まれ！三重のクジラとイルカたち」(～9 月)
10 月 企画展「三重の円空」(～12 月)
令和 5 年 4 月 企画展「親鸞と高田本山 専修寺国宝からひろがる世界」(～6 月)
7 月 企画展・特別展「高畑勲展 日本のアニメーションに遺したもの」(～9 月)
10 月 企画展「鳥のひみつ調べ隊！～みて・きいて・ふれて～」(～12 月)
11 月 入館者数 200 万人達成
令和 6 年 4 月 企画展「パールの宝石、神秘的輝き」(～6 月)
4 月 開館 10 周年記念行事開催
7 月 企画展「標本 あつめる・のこす・しらべる・つたえる」(～9 月)
10 月 企画展「刀剣 三重の刀とその刀工」(～12 月)
令和 7 年 1 月 特別展・企画展「金曜ロードショーとジブリ展」(～4 月)



開館以来ご支援いただいた 企業・団体のみなさまへ 「企業パートナーシップ感謝の集い」を 開催しました



お集まりいただいたみなさまへ守屋館長よりご挨拶

MieMu 開館前から、数多くの企業・団体のみなさまから、寄附の支援をいただいております。

特に企業パートナーシップ会員の制度は、一定額を会費としてお支払いいただくことで、MieMu の利用に係る各種特典を受けていただくことができるもので、134 社の会員様にご利用いただいております（令和 7 年 2 月現在）。

この制度は県立の館としては先駆的な取り組みとしてスタートし、みなさまの継続的な支援をたまわり、おかげをもって 10 年を迎えることができました。そこで、開館当初からご支援いただいた企業のみなさま向けに、1 月 30 日（木）、特別展・第 39 回企画展「金曜ロードショーとジブリ展」の内覧会にあわせて感謝状と記念品を贈呈する、企業パートナーシップ感謝の集いを執り行いました。集いではご



感謝状を持つ株式会社百五銀行経営企画部広報 SDGs 推進室渡邊康人室長（右）、カレンダーをもつ MieMu 守屋館長（左）

出席いただいた企業を代表して、株式会社百五銀行様へ記念品の贈呈をさせていただきました。

（博物館企業連携専門員 高倉錦也）

みんなの博物館があなたの町へ

移動展示は平成 18（2006）年にスタート

移動展示は「みんなの博物館があなたの町へ」をキャッチフレーズとして、旧三重県立博物館が平成 18 年からスタートした事業です。MieMu でもその事業を引き継ぎ、開館した平成 26（2014）年から実施しています。博物館には「調査研究、資料の収集保存、展示公開、教育普及」の 4 つの基本事業があり、移動展示は県民の皆さんとともに収集保存した地域資料とその資料等の研究成果を用いて、各市町の文化施設等を会場にして、数日から長くて 1 か月ほど開催してきました。また、関連事業として展示解説会や講演会等も開催しています。

いろいろなところで開催

MieMu では、これまで、尾鷲市（平成 27 年度）、志摩市（平成 28 年度）、御浜町（平成 29 年度）、紀北町（平成 30 年度）、多気町（令和 3 年度）、伊賀市（令和 5 年度）の計 6 市町の資料館、公民館、図書館、伊賀市では国史跡である江戸時代の藩校の建物「崇廣堂」^{すうこうどう}で実施しました。また、三重県立盲学校（平成 29・30・令和元年度）でも、触れる展示をテーマに移動展示を実施してきました。

展示資料は開催する市町に関するモノや標本が中心で、その地域の特徴的なお雑煮のレプリカや正月飾り、様々な年代の生活や祭りの様子が写った写真や映像、様々な年代の絵地図、地域で産出した石器や土器などの考古資料や岩石・化石、地域に生育する植物の押し葉標本、地域に生息する哺乳類や鳥類・魚類の剥製や骨格、昆虫や貝類の乾燥標本といった動物など多くの資料を展示してきました。一部の資料は、見る・触れる・聞く・匂うといったさまざまな感覚で観覧できるような演出も実施してきました。

令和 7（2025）年度の移動展

地域の皆さんに移動展示をご覧いただくことで、自分の住んでいる地域のことを知り、新たな発見をしていただき、地域のすばらしさに気づき、地域をより良くしようとするきっかけの一助になればと思っています。

令和 7 年度は、大台町の B&G 海洋センターで 10 月 3 日（金）から 11 月 1 日（土）まで開催する予定です。現在、大台町で MieMu の学芸員が様々な調査を実施しています。その成果や演出にご期待ください。



平成 28（2016）年度、志摩市で行った展示



平成 29（2017）年度、御浜町で行った展示



令和 5（2023）年度、伊賀市で行った展示

北村 淳一（動物生態学）

主に淡水魚類のタナゴ亜科魚類の種多様性の維持機構と生成機構を研究しています。



“博物館ウェディング” から、はや10年

開館記念企画展第5弾として平成27（2015）年1月から3月に開催した展覧会「ふたりのウェディング事情」。その関連行事として、同年3月1日（日）に、実際の結婚式を MieMu で行いました。

結婚式を挙げられたのは、公募によって選ばれた、御浜町にお住まいの植村光教さんと智子さん、人前式の司式（進行役）を当時の鈴木英敬知事が務めました。当日は普段の博物館とは違って、結婚式らしい華やかな雰囲気になりました。私たち職員と新郎新婦、ブライダル関係の会社の方々が協力して、MieMu らしい“博物館ウェディング”を執り行い、心に残る一日となりました。



結婚式で全員参加のお菓子まき

その結婚式の日から早くも、今年の3月1日で10年が経ちました。植村さんご夫妻は現在も御浜町で生活されていますが、この間、娘さんと息子さんが誕生し、ご家族が増えました。お子さんたちも赤ちゃんの頃から、MieMu へ遊びに来てくれていて、嬉しく思っています。



平成28（2016）年、娘さんが赤ちゃんの頃にさんちゃんと

お子さんたちは絵を描くことが好きで、こども体験展示室でも、感想シートに絵を描いたりして楽しんでいます。



10周年で来館、こども体験展示室にて

また、昨年の令和6（2024）年11月には、結婚10周年、そして MieMu の10周年を記念して、ご家族でご来館いただきました。10年前に結婚式を挙げたミエゾウの前で記念撮影をして、当時のことを思い出していただきました。



ミエゾウの前で10周年の記念撮影

この10年間を振り返って、智子さんはあっという間だったと言います。MieMu のみなさんに結婚式をしてもらったので、家族円満に過ごせてよかったとお話してくださいました。人生の節目となる結婚式を当館で挙げ、その後も当館の成長とともに人生を歩んでいって、感慨深いです。担当としては、産育をテーマにした展示をする機会があれば、植村さんご一家の子育てストーリーもご紹介させていただけないかと、ひそかに考えています。

門口 実代（民俗学）

県内各地の人びとのくらしについて、フィールドワークを通して研究しています。とくに食文化に関心があります。



基本展示をつくって10年

伊勢参宮の東西文化の交流を読み解く



基本展示室

基本展示も出来上がってはや 10 年

開館前から研究を重ねて制作した基本展示ですが、来館者のご質問などに対応する中で、新たに気づかれることも多く、展示内容に関する視点や研究もさらに深まってきました。このことを、伊勢参宮を中心に報告します。

江戸橋こそは伊勢参宮の東西文化の結節点!?

MieMu の基本展示では、日本の東西の文化の結節点としての三重を紹介しています。三重大学の学生向けに展示解説した時、学生の通学経路である江戸橋（津市）を題材にすれば東西の結節点を具体的に説明できると気づいたことがありました。



江戸橋は、日永の追分（四日市市）で東海道から伊勢街道に進む江戸発の参宮客と、関の追分

左：MieMu の基本展示のジオラマ（江戸橋付近、筆者注）
下：『伊勢参宮名所図会』江戸橋（当館蔵）



（亀山市）で東海道から伊勢別街道に進む京発の参宮客が合流する一大交差点だからです。例えば江戸時代のベストセラーのコメディ小説ともいえる『東海道中膝栗毛』では、江戸橋で江戸から来た弥次喜多が、京から来た人びとの声やいでたちをあれこれ批評する姿が記されています。狭い道（当時の基準は約 5.5 メートル）を多くの人が歩く旅でしたので、当然声も聞こえたはず。[アッ、言葉が違う参宮客がいる！]と実感する東西文化の結節点江戸橋だったのでないでしょうか。

長くて大きく見える津の町

江戸と京の参宮客が江戸橋で合流することで、津で人流がおおむね倍増することとなります。『伊勢参宮名所図会』では江戸橋の絵に「津」と記されており、町場がこの先約 6 キロ続きます。ただ、町場といっても城郭部分以外は一本の街路が続くだけで街路の裏は田畑も多くあります。裏を通る旅人はまずいけませんから、増える人流、延々と続く街路、伊勢国・伊賀国で最大数の武士を抱える津藩の規模と相まって、2 代藩主藤堂高次が形成した津の街並みは大きな町という印象を人びとに植え付けたのでしょ。安政 2（1855）年、参宮途上の志士清河八郎は「津の町は藤堂家約 30 万石の城下で約 8 キロメートルと旅人は退屈するほどの長さがあるにぎわい、城もかなり見事だ」という旨を記しています（『西遊草』）。

津城は藤堂家の居城にしては少々狭く思えますが、街道を行く人びとに遠巻きに大きな隅櫓をちらちらと、岩田川では広い川と豪華な欄干のある橋、広い堀と奥に二重に広がる石垣と櫓を一挙に見せて、巧みに景観を形成しています。これも、MieMu の津の町のジオラマを低い目線で見るとよく理解できます。「伊勢は津でもつ」（『譬喩尽』）とうたわれた津の町の威



上：MieMu のジオラマ 岩田橋付近（左下の川の橋）を低い目線で見るとよく理解できます。[伊勢は津でもつ]（『譬喩尽』）とうたわれた津の町の威



容は、実際に歩いた江戸時代の参宮客の視線を意識せねば理解できないと、MieMu の展示を説明する中で気づかされたのでした。

街道の交差点でどんどん人が増える

さて、江戸橋で参宮客が増えるというある意味当たり前のことに気づいたのは、開館前参宮の盛り上がりをも基本展示で図示するという課題に取り組んでいた時でした。路線バスのターミナルに線が集中する図にヒントを得て、おおよそ各都道府県別に江戸時代の旅人の日記を選び読み解き、複数の旅人の経路を地図に線で表し、どんどん集まる参宮客の動線を表現しました。

江戸橋同様の大規模な合流は、外宮のほど近く、津・松坂（阪）からの参宮客と大坂（阪）からの参宮客がぶつかる^{すじかいばし}筋向橋（伊勢市）でもみられます。参宮客の大半が通る地点なので、大量の参宮客が来た時はふるまいが実施されたり迷子案内所が設置されたりしました（『御陰参宮文政神異記』）。

なお『伊勢参宮名所図会』の多数ある挿絵では、多くの飛脚や大名行列が描かれる東海道と、武士は少なく庶民の参宮客が多く描かれる伊勢街道とが丁寧に描き分けられています。伊勢街道に入りビジネス客が少なくなり、大きな街道の交差点ごとに参宮客の増加を体感し伊勢に至った当時の旅人の様子が想像できます。

「当時の人の信仰心は？」という問いと眺望

このような伊勢参宮の説明をすると、「当時の人の信仰心はあったのか？」という質問がよく寄せられます。細やかな感想が記された当時の日記は案外少なく、質問のたびに悩みましたが、「徒歩の旅という前提に立てば、一般論で答えられる」とある時気づきました。長距離を歩きゴールしたならば、そこには現在の旅行とは異なる達成感があるでしょうし、復路も当然徒歩ですから無事を祈る気持ちも発生したはずで、遠方から来る参宮客の方が敬虔^{けいけん}にみえたという明治初期の聞き書きも残っています（『伊勢参宮』敬神教育会）。

同様に、二見浦（伊勢市）や朝熊岳（同）から富士山が見えるといった眺望の話も、徒歩の旅だという前提で考察すべきと考えます。江戸時代に伊勢の町に来た参宮客はまず町を通り過ぎ、最初に楽しむ場が二見浦でした。わざわざ寄り道する理由は、二見浦は伝承や和歌で知られた名所であり、神宮領で製塩施設もあり神事も行われる場であること、地元の人々もみそぎをする場で旅人のみそぎにも適していることなどがよく挙げられます。あわせて江戸から来た人々がこれまでの道のりを実感する、京・大坂から来た人がまだ見



上：参宮客の増加を表現したパネル

右：江戸時代の浮世絵：富士三十六景 伊勢二見ヶ浦（当館蔵）



ぬ東国を実感する眺望の場としてとらえるとさらに二見浦の重要性がより深く理解できると思うのです。

そういえば現在の参宮街道ともいべき国道 23 号も、特に眺望のよい場所はありません。伊勢平野の平坦な道は、旅人にやさしく楽な代わりに、峠を徒歩で越えた見晴らしと達成感は味わえません。遠い東国を感じさせる二見浦や朝熊岳の眺めは格別だったという仮説が成り立つと思えるのです。基本展示でも二見浦と朝熊岳を名所として紹介していますが、そもそもなぜここが名所なのかを考えさせられたのでした。

この徒歩の旅は、明治に鉄道（現 JR 東海）が開通し消えてゆき、昭和に電気鉄道（現近畿日本鉄道）が開通することで参宮の季節も春以外に初詣も加わり、戦後バス、マイカー旅行が普及し、現在の状況に立ち至ります。

さらに対話を重ねて新たな発想を

ここまで、この 10 年いろいろな方との対話の中から生み出された基本展示の深読み解説を記しました。この経験を大切にしつつ史料を探し、さらに新たな MieMu の展示の楽しみ方を切り開いていければと考えています。

太田 光俊（近世史）

江戸時代の三重県の宗教・文化を中心に研究。また、戦国・織豊期の宗教についても論考があります。



MieMu からのお知らせ

利用案内

■ 利用時間

午前9時～午後5時
(基本展示室、企画展示室の最終入場は、閉館30分前まで)
※特別展・第39回企画展「金曜ロードショーとジブリ展」の最終入場は閉館1時間前です。

■ 休館日

月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始(12/29～1/3)、その他別途定める日

■ 観覧料

基本展示室 一般 520円(410円)、学生 310円(240円)
高校生以下無料 ※()内は団体料金
企画展示 展覧会ごとに別途料金を定めます。
詳しくは各展覧会のお知らせをご覧ください。
年間パスポート 一般 1,670円 学生 1,040円
※障がいをお持ちの方のご見学についても、お気軽に館内スタッフへご相談ください。
お電話での事前のご相談も承ります。



MieMu みえむ 三重県総合博物館

三重県津市一身田上津部田3060(三重県総合文化センター向かい) 〒514-0061
tel 059-228-2283(代表) fax 059-229-8310 mail MieMu@pref.mie.lg.jp
web <https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/>
X @mie_pref_museum
facebook @mie.pref.museum
Instagram miemu2014
YouTube <https://www.youtube.com/@MieMu>



三重県総合文化センター

春のそうぶんに行こうよ！
こいのぼりがいっぱい！！

端午の節句に合わせてこいのぼりを掲揚します。
100匹を超えるこいのぼりが一斉に青空を彩る姿は壮観！さらに、エントランスでは屋内を泳ぐこいのぼりを間近に見ることができます。
期間中、そうぶんとMieMuを巡ってクイズに挑戦するとプレゼントがもらえますよ。
掲揚するこいのぼりは全て、県内外の皆さまから寄贈していただいたものです。お家に眠っているこいのぼりがありましたら、ぜひそうぶんにお送りください。



日時 4月25日(金)から5月11日(日)

※見学自由

会場 三重県総合文化センター

メインエントランス・知識の広場・祝祭広場

問い合わせ先 三重県総合文化センター 総務部
津市一身田上津部田1234

Tel 059-233-1105 Fax 059-233-1106

URL <https://www.center-mie.or.jp/>

休館日:月曜日(祝日にあたる日は開館、翌平日閉館)、年末年始

三重県総合文化センターは、文化会館・生涯学習センター・男女共同参画センター「フレンテみえ」・県立図書館・放送大学三重学習センターから構成される複合施設です。



三重県立図書館

〈使ってみよう！図書館〉
ティーンズコーナー

三重県立図書館では、ティーンズコーナーを設置しています。閲覧室に入って正面の柱に掲示した「今日は何の日?」の小さなホワイトボードが目印です。
岩波ジュニア新書、ちくまプリマーブックスなどの新書を中心に、勉強や部活、進路、社会問題、心身の健康についてなど、ティーンズの皆さんに手に取ってもらいたい内容の本を並べています。
その他、2ヶ月ごとにテーマを変えて展示を行い、ブックリストを置いています。ぜひご利用ください。



問い合わせ先

三重県津市一身田上津部田1234

Tel 059-233-1180 Fax 059-233-1190

開館時間:午前9時～午後7時

休館日:月曜日(祝日にあたる日は開館、翌平日閉館)、月末(土日祝日の場合は、その直前の平日)、年末年始、特別整理期間



三重県立美術館

コレクションによる特別展示
ルックバック：近代 洋画

三重県立美術館の近代洋画のコレクションは、歴史上重要な画家の作品を揃え、全国の公立美術館のなかでも優れた内容で知られています。そのなかからテーマを設けてコレクションの名品をわかりやすく紹介します。



藤島武二
《大王岬に打ち寄せる怒濤》
1932年
三重県立美術館蔵

観覧料 一般700(500)円 学生600(400)円

高校生以下無料

※()内は20名以上の団体料金

期間 4月26日(土)から7月6日(日)まで

問い合わせ先

三重県津市大谷町11

Tel 059-227-2100 Fax 059-223-0570

開館時間:午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日:月曜日(祝日にあたる日は開館、翌平日閉館)、年末年始



三重県環境生活部 文化振興課 歴史公文書班

三重県では、歴史資料として重要な公文書等を「特定歴史公文書等」として三重県総合博物館で保存しており、利用申請手続きにより、総合博物館内の資料閲覧室でご覧いただくことができます。また、資料閲覧室では、定期的に特定歴史公文書等の企画展示もおこなっています。

URL <https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/000236866.htm> 問い合わせ先 三重県環境生活部 文化振興課 歴史公文書班

三重県津市一身田上津部田3060 総合博物館3階 Tel 059-253-3690 Fax 059-229-8310



三重県総合博物館情報誌「みえんしす」

「三重の」を、生物に与えられる世界共通の名前である「学名」であらわすと「miensis=みえんしす」となります。この情報誌「みえんしす」は、博物館でもよく使われる学名にちなんであらわしました。生物だけでなく、博物館が発信する様々な「三重の」をこめて。

発行日:2025年3月14日(禁・無断転載)
企画・編集・発行:三重県総合博物館
印刷:上野印刷株式会社